

『西郷どん』を育てた教育制度とメディアプラスの組織づくりに見る意外な共通点

## 〈第1回〉郷中教育と網組織で育まれる結束力

師走の足音が聞こえてきて、来年の話題を耳にする機会が増えてきました。その一つとして、NHK大河ドラマ『西郷どん』に注目している人も多いのではないのでしょうか。出演者たちの豪華な顔ぶれはもちろん、2018年は明治維新150周年の年で、その節目に維新の立役者である西郷隆盛を主役に迎えるわけです。独特な響きを持つ薩摩弁（「西郷」を「せご」と言い、「どん」は「殿」の意味）に加えて、舞台となる薩摩藩、特に全域を領有した現在の鹿児島県に対する視線も集まることでしょう。

弊社においても、社長の恒吉明美が鹿児島出身であることから、放送を楽しみにする社員が早くも熱を帯び始めています。そこで調べたみたところ、面白いことがわかりました。時代も集団としての成り立ち、存在意義もまったく異なるのに不思議ではありますが、薩摩藩で行われていた「郷中（ごじゅう）教育」という団体学習活動と、弊社の組織づくりには、共通点がいくつもあったのです。

初回の今回はまず、郷中教育の学習形態と、弊社の「網組織」という組織の基盤に見られる共通点について紹介します。ポイントは、年齢や立場などに縛られずにコミュニケーションを図れて、結束力を育みやすい点です。



## ■先輩が先生役となって後輩を指導する郷中教育

郷中教育の「郷」とは、現在の〇〇町のように、薩摩藩内にあった集落につき単位で、郷中教育は郷ごとに住む藩士の子弟を対象に行われていました。現在の学校に当たる藩校とは別に、子弟らは自主的に集まり、学芸と武芸に励んでいました。

年齢別の区分はあり、6、7歳から10歳は「小稚児(こちご)」と呼ばれるグループに、11歳～15、16歳は「長稚児(おせちご)」、15、16歳～24、25歳は「二才(にせ)」、24、25歳以上の妻帯者は「長老(おせんし)」というグループに属しました。

学習形態は少人数制で、先輩が先生役となって後輩を指導することを基本としました。例えば、稚児や長稚児は朝6時に起きると、決められた二才の先輩の家へ行き、漢文の書籍を読んだり習字をし、朝食後は昼まで広場で相撲や武芸を習う、という流れです。そうして彼らは長幼の序を重んじながら、愛と厳しさでもって切磋琢磨しあい、郷ごとの結束力を高めていったのです。薩摩藩士の多くが何が起きるかわからない戦場で活躍できたのも、独自の郷中教育によって人間的な度量を広げ、勇猛さや重厚さに磨きをかけられたからでしょう。

西郷隆盛は20歳前後のとき、下加治屋という下級藩士が住む小さな郷で二才のリーダーを務めていました。この下加治屋郷には大久保利通や東郷平八郎、大山巖なども属していて、のちに「明治維新も日清・日露戦争も、下加治屋で行なった」と言われるほど、名だたる藩士を排出したことで知られています。

## ■郷中教育のように、社員同士が切磋琢磨するメディプラスのグループ制度



いっぽう、弊社では所属や部のほかに、年齢や性別、特性などのさまざまな軸によって構成されたグループが複数存在しています。このグループ制度が弊社の組織づくりの特徴で、縦割りの組織には存在しにくく、また、個人のつながり方が縦横無尽であることから「網組織」と命名しています。

まず、全社員が必ず所属するのが5人1組の「クラス」です。個々人の生活習慣の改善を目的にしていて、4カ月に1度のペースで“クラス替え”を行っています。

早寝早起きや栄養バランスの取れた食事、適度な運動などの健康的な生活習慣は、仕事のパフォーマンスだけではなく、QOLの向上にも欠かせません。それは誰も知るところですが、弊社には一人暮らしの若い独身社員が多く、継続できない状況が見受けられました。

そこで2年前からクラス制度を設け、毎朝クラス長が中心になって生活習慣を確認しあうようになりました。中には、LINEでグループを作ってやりとりしたり、終業時にみんなで集まってストレッチをしたり、読書習慣を目標にしている場合は感想を発表するクラスも。郷中教育と同様に、このクラスも自主的に行っているから日常生活に定着しやすく、とても有効な取り組みになっているでしょう。

クラスメイトの親睦を深めるランチや飲み会を定期的に開くクラスが多く、飲み会の場合、早い時間帯に5人がまとまって帰宅することになるので、小さな社内の空気は一変します。ほかの人たちに「自分たちも早めに切り上げようかな」というムードが伝わりやすく、自然と残業が減る副次的な効果も得られています。

## ■結束力を高めるグループ制度は社員にとっての「居場所」



ほかにも、年齢と社歴別にチーム分けをする、入社間もない「若者チーム」と経験豊富な「語り部チーム」、お客様満足度の向上について研究する「シグナルチーム」なども存在します。こうした複数のグループは、社員の結束力の向上につながるだけでなく、各人の「居場所」になっています。

一般的に、居場所とは自己の承認欲求が満たされると同時に、他者とのコミュニケーションの場であり、会社や家庭のほか、友達との集まり、習い事、趣味のサークルなどが該当します。多くの人が一つ以上の居場所を持っていて、居場所ごとのコミュニケーションを楽しみながら暮らしているでしょう。そうすることで、かりに一つの居場所でストレスが生じて、ほかの居場所で解消することができます。

そこで、弊社ではグループ制度という形で、社員の居場所づくりに積極的に取り組んでいるのです。入社すると、自動的に所属部署以外に2つ以上のグループに所属できる仕組みになっています。

社内の居場所を複数持つことで、上司以外のさまざまな視点から見守られる心強さに加えて、多角的に物事を判断できるようになる複数の視点、つまり「複眼」を養うことができるのもメリットだと考えます。自分でも気づかなかった新たな能力や魅力の発掘をはじめ、プライベートの充実や将来の人生設計など、自身をより広い視野で捉えられるようになるに違いありません。この点も、家族や藩校以外に、郷中教育という団体学習活動の場を持っていた薩摩藩と共通すると言えるでしょう。

西郷隆盛をはじめとする多くの名士を育てた郷中教育と共通点が多い弊社のグループ制度も、社員の人間力を高める育成プログラムになっていると自負します。

### 【参考文献】

『鹿児島県教育史 復刻版』鹿児島県教育委員会編(大和学芸図書)

『薩摩精神の真髓 郷中教育の研究』松本彦三郎著(株式会社島津興業、尚古集成館)

『薩摩の郷中教育』北川鐵三著(大和学芸図書)

## ■会社概要

会社名:株式会社メディプラス

本社:〒150-0013

東京都渋谷区恵比寿4-6-1恵比寿MFビル2階

代表者:代表取締役 恒吉明美

設立:2003年8月

資本金:4,650万円

Tel:03-6408-5121

Fax:03-6408-5122

URL:<https://mediplus.co.jp/>

事業内容:化粧品<メディプラス>の企画・開発・販売